

社会資本総合整備計画『次世代の下水道整備の推進（その2）』の事後評価

●委員

下水道という大事なことを担っていただいていると感じている。20年前と比べ、水質が目に見えてきれいになっていると生活の中で実感している。

もう一つお願いがある。琵琶湖には小鮎のえさになる小さなプランクトンが生息していないと、滋賀県琵琶湖環境科学研究センターが発表している。琵琶湖の生態系まで視野を広げ、水質もきれいにしてほしい。省庁の縦割りを無くして、琵琶湖の従来生態系、在来種を取り戻すようなことを一緒にやっていただきたい。汚泥はもしかすると、生物の餌になるかもしれない。

●委員

この会議で話す範囲ではないかもしれないが、P.29のグラフを見ると、農地や山林の汚濁負荷量は変わらない。どう考えているのか？

●下水道課

ご指摘の農地や山林、また市街地の道路からの排水による汚濁負荷はいわゆる面源負荷と言われており、特に農地系の負荷が琵琶湖への負荷となっていることは認識している。これに対する取り組みについては部局が違うため正確に把握しておらず回答しかねるが、「環境こだわり農業」として代かきの濁水流出を削減させる呼びかけを行うなどで対策をしていると聞いている。

●委員

下水処理だけでは処理が足りていないということは明らかだ。下水以外の汚濁負荷量は増えているものもある。縦割りでなく部局を超えた取り組みをお願いしたい。

●委員

公共事業評価監視委員会の初回なので一言申し上げる。計画の目標設定がアウトプットかアウトカムかということについてである。今回はアウトプットである。下水道処理人口普及率と水処理施設の整備状況についてであり、事業が果たせたという報告となっている。本来の事業評価はアウトカムが重要と考える。事業により、どれだけ負荷が下がった、コストが下がった、接続率がこれくらい上がったというような、そういうものも合わせて調査していくことで、県民のために、あるいは琵琶湖のために貢献していることのアピールになるし、これから事業を継続していくうえで政策に対する検証として大切になっていくと考える。そういったところも今後は合わせてご紹介いただけると、より望ましいと思う。

●委員

P.29 のグラフについて、琵琶湖が昔と比べてきれいになった印象はあるが、引き続き浄化していくことが必要という話で合っているのか？瀬戸内海ではきれいにし過ぎているという問題も聞いた。

●下水道課

下水道の整備目的の一つとして琵琶湖の環境基準の達成がある。現時点で達成しているのは北湖のリンのみだったと思う。さきほどの面源負荷対策などが、琵琶湖の環境基準の達成という点では重要と認識しているが、農業分野等における対応については、個別の下水道事業での反映は困難な所である。面源負荷に対して点源負荷の対策である下水道事業だけでは、環境基準を達成しない状況ということは認識しているところではあるが、目標に近づくため下水道事業の役割として窒素の処理能力を高める努力を進めていく。

●委員長

毎回、この委員会で問題になるところで、国に出された計画の目標がどのように達成されたかを報告されているが、委員は県民にとってどういうプラスがあったかというところに関心がある。最終的に県にとってどういうメリットがあったのかを説明いただくと受け止め方が変わってくる。毎回の課題であり、次回に向けてご検討いただけたらと思う。

以上